

玉當ニねねん相

軒かう伊のやんきりの

可とあつとん強てゆ

高年くおんうりお小は

アウキの宿海息文の標

判よりくまは前そく

おいさま若言をアとて大

ニ号う方と他より従是中

アハ由自分の雑法一由自

外で書きき小ものと他より

夢情のある一キは是は是く

併し雑法と先行するを

いふ人又見せるものであるは

上は讀者の悪評に敵か

と自ら注ぎするの必要はあ

有これ然らばは徒に天

狗の笑ひを招くことなり

のPルキ夫故友人の若言

(忠告の意)に主腹のやうで

終つは誰れも忠告をなす

ものなるなり可かとあ

軒とて悪言あるやをいふ

らうとくさうは後には良

き業的のゆふのなり

いまは改めて又一つ苦業を

アと小垣園燈認令とやこれ

檀堂軒と合せて僅かに三

言の太兄の弟と家家は

他人から見れば實に苦とき

園作とておれに此三人が態

に交りか出あまといふとは地

何程の非難あること三人の耻

辱とあつとん長年長

見とあ位置から一番大

兄の耻辱とて作未決

俗人、彼を言するものい

俗人、彼を言するものい

兄弟に親の分家を構て

てふとは最も根本のこと

大兄の事約と意あする

これ名譽とあ思ふこと

又文章といふもの、見地よ

り考へて最も大切を最

根本の心懸かたなりし

弟親類と親しき交り

かあふることは、欲し又學

て一つのおもちやいな

小人、直言の友は

暴にまらざると言ふは

大兄か小生を直言の友と

して無徒をゆかりあり

あつとを希望せしめあ

お前より上は、かやうな

苦言はなせばア上なる

室材木のすい減り縮

外なる小相軒が何れ

知らずといふは、縮

慚愧の苦みたるは、ね

おまゆつりPルキ

月さらば、縮あたる

十九日、同行のゆふ

地りす、かくやをは、掃

上あの上は、言と、

あつと

左へま

あつと

あつと

上総山武郡睦同村

土蔵真一郎

百十

